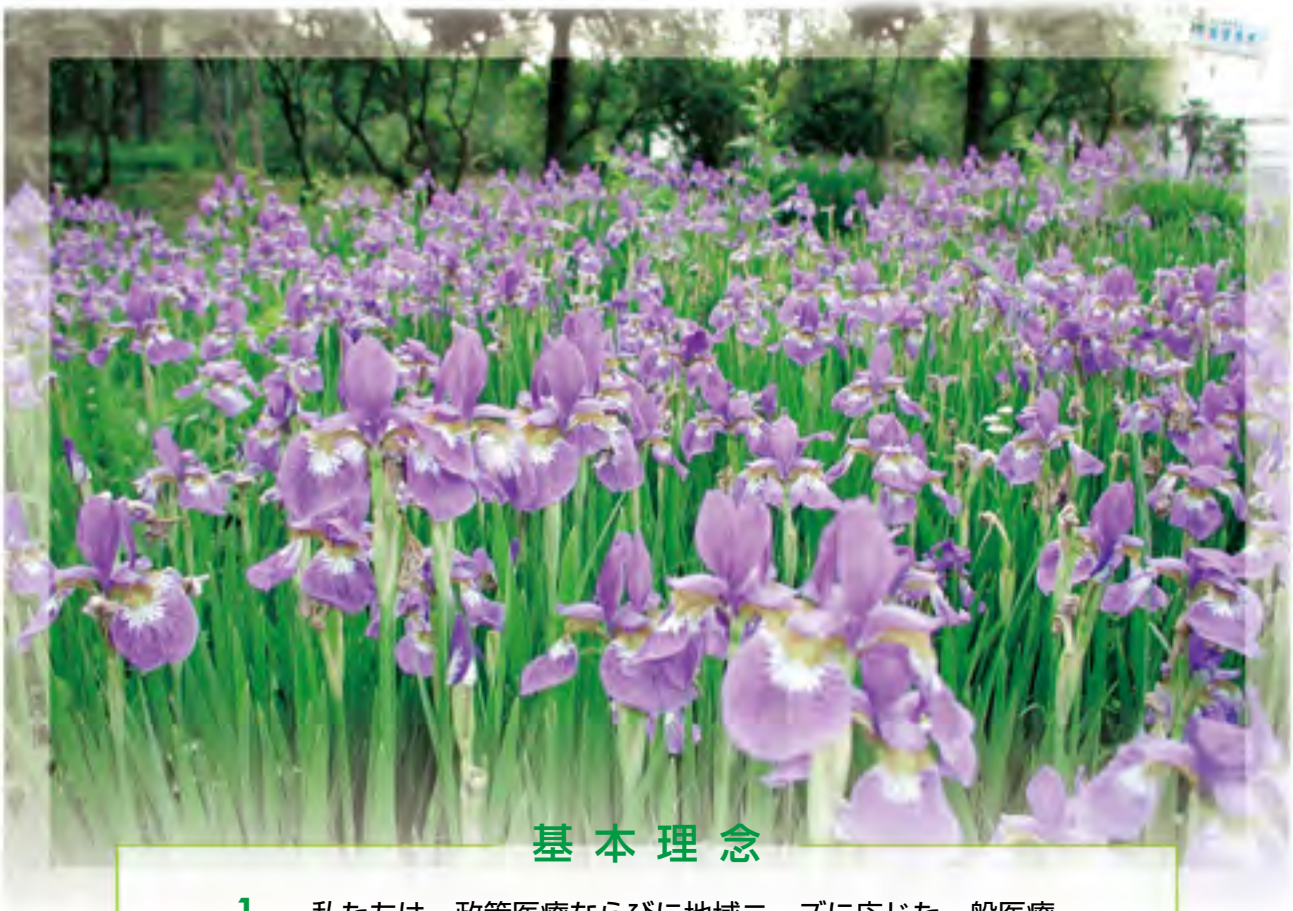
国立病院機構（NHO）宇都宮病院院内広報誌

わかあゆ

WAKA-AYU



基本理念

1　私たちは、政策医療ならびに地域ニーズに応じた一般医療をおこないます。

2　私たちは、患者様の立場や権利を尊重し、患者様中心の医療をおこないます。

3　私たちは、良質で安全な医療を提供します。

4　私たちは、常に改革心を持ち、健全な経営をめざします。

目　次

- 副院長就任挨拶 …… 1
- 転任挨拶 …… 2
- 糖尿病とともに歩む …… 3
- くすりの知識【6】 ジェネリック医薬品 4
- 職場紹介「東5」「臨床検査科」… 5
- 看護部・「看護の日」記念行事… 6
- 外来診療担当医表 …… 7

2008 夏 第8号
広報誌／年4回発行
発　行：国立病院機構 宇都宮病院
発行日：平成 20年 7月 1日
発行責任者：沼　尾　利　郎

副院長就任挨拶

副院長（併任・臨床研究部長）田中孝昭

6月から副院長に就任しました田中孝昭です。よろしくお願い申し上げます。

平成13年7月、まだ国立療養所東宇都宮病院の時代に臨床研究部長として赴任して7年になります。その間いくつかの新しい治療法を開発いたしました。中でも変形性膝関節症に対する骨切り術は多数の手術見学者が来院し、さらに米国・欧州でも評価され、当院の症例結果が論文やパンフレットに英語で紹介されております。また最近開発しました骨折治療法は日経産業新聞1面に掲載され、国立病院機構本部のホームページの研究欄でご覧になることができます。臨床研究部長は併任ですので引き続き整形外科医ならびに研究者として「歩けない人を歩けるようにする」のが使命と考えておりますが、今後は副院長としても、病院スタッフと患者さんがhappyになれるように努めたいと考えております。スタッフ皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

骨の欠損、注射薬で再生～宇都宮病院が開発～

骨の欠損、注射薬で再生～宇都宮病院が開発～
（吸収置換性人工骨の開発から最新骨折治療まで）

宇都宮病院　臨床研究部長　田中　孝昭

本年1月28日付けの日経産業新聞1面に当院臨床研究部で開発した骨折治療法が掲載されたのを機に、人工骨の最新状況を紹介する機会を与えていただいたので、ここに紹介します。

『骨腫瘍、骨髄炎、骨折、人工関節のゆるみなど、様々な原因により骨欠損が生じる。こうした骨欠損の修復に欧米ではドナーから採取した同種骨が主に使われてきたが、ウィルス感染などの問題がある。一方、我が国では同種骨の入手は困難で、主に自家骨移植が行われてきた。しかし、自家骨は採取量に限界があり、さらに採骨部痛が高率に発生する。そこで自家骨・同種骨の代替として骨補填材、いわゆる人工骨が開発され、その使用頻度は年年高まっている。現在国内で使用されている骨補填材はハイドロキシアパタイト（HAP）、リン酸カルシウムセメント（CPC）、β-リン酸3カルシウム（β- TCP）の3種類である。それぞれに利点と欠点があるが、吸収という点からみると前2者はわずかに吸収されるのに対し、β-TCPは殆どが吸収され骨に置換される。1989年以降、我々はオリンパス（株）共同開発した気孔率75%β-TCP多孔体を1000例以上に用いてきたが、骨形成が得られなかったものは感染と骨腫瘍の再発であった。…』

（機構本部ホームページより一部抜粋）

転 任 挨 拶

事務部長 磯 貝 太 朗

平成20年4月1日付けの人事異動で東北の山形病院より転任して参りました磯貝と申します。どうぞよろしくお願い致します。

病院勤務を30数年しておりますが、福島県から北の青森県まで、すべて東北の地での仕事でしたので関信管内に関して分からないことだらけで、着任して3ヶ月経過した現在も病院内外の多くの方々と出会いながら学んでいる現状です。

さて、当院は平成18年9月に「宇都宮病院改革プロジェクト」を立ち上げ、職員が一丸となって努力し、その結果、19年度では増収により赤字額は大幅に改善されました。しかし、経営状態が大幅に改善されても、現在は「再生プラン」施設であり、20年度においても、その計画を確実に実践する必要があります。吉武前院長が本誌6号の新年の挨拶で3つの課題を記しております。㈰障害者病棟を軌道に載せる㈪一般病棟の病床利用率の向上㈫在院日数の短縮化　です。この課題を成就すれば黒字確実と。私は東北のある病院で厚生労働省による経営改善のための特別調査指導での改善計画立案と実践確認担当を経験しました。また、別の病院では保険医療機関停止の最後の半年と全面復帰及び復帰後の経営改善も体験しました。(阪神大震災の救助や人事院の公平審理、放射線事故の患者さん対応等様々な事件･事故対応も経験しました)これらの経験を宇都宮病院改革に生かしていければと考えております。ある病院の十訓の一部ですが･情報を共有しよう。*情報は最小限から最大限へ*　正確な情報を手に入れよう。　ものごとの原点は現場にあると考えよう。　仕事は的確かつ迅速にしよう。　確認の上にも確認をしよう。他。出来ることから実践しましょう。

ー　大切なことも同じことは三度まで　ー

看護部長 福 田 淑 江

桜前線を北上し小田原から宇都宮病院に異動し、早3ヶ月が過ぎました。宇都宮病院は経営の健全化を目指し平成18年にスタートした改革プロジェクトの真っ直中にあり、病院が急激に変化しているということがよくわかりました。

地域のニーズに応え救急患者を受け入れるための体制整備、入院基本料の上位取得に向けた在院日数短縮への取り組み、内視鏡センターの開棟、結核病棟から一般病棟へ種別変更してスタートした障害者病棟の運営、そして看護師確保困難等々様々な課題が見えてきました。会議の席で熱い議論が噴出する場面もありますが、フレキシブルな対応策が提案されるのも宇都宮病院の魅力の一つかと思います。また、在院日数短縮に向け退院支援のシステム作りも始まります。以前読んだ本にこんな言葉がありました。「生きのびたのは純正な種ではなく変化しえた種である」と、宇都宮病院の存在価値を確かなものとし、改革プロジェクトのゴールをより高いものとするには、自ら変化を求め行動する職員の育成が「鍵」であると強く感じています。

看護師確保困難の中、すでに平成21年度の看護師募集活動も開始されました。一般･重心･小児慢性･結核と幅広い守備範囲の中で展開される当院の看護の魅力は何かと自問自答していますが、当院の魅力は、急性期だけに特化された病院では経験できない看護を実践していることだと思います。急性期、回復期、慢性期、ターミナル期、そしてチーム医療として成熟したケアを提供している重心の看護を経験できることを当院の看護の魅力としてアピールしたいと考えています。

糖尿病とともに歩む
ー希望と挑戦ー

糖尿病･代謝内分泌科医長 佐 藤　　稔

糖尿病は、インスリン作用不足による慢性の高血糖状態を主徴とする代謝疾患群です。インスリン分泌低下やインスリン抵抗性増大はインスリン作用不足をきたし、血糖値が上昇してきます。慢性的に持続する高血糖や代謝異常は、細小血管障害である網膜症、腎症、神経障害の発症や、全身の動脈硬化症の進展による心筋梗塞、脳卒中などの発症に結びつきます。特に、動脈硬化進展に関しては、糖尿病発症前の耐糖能異常（IGT）の段階で認めることから、より早期からの積極的治療介入をすべきであると考えます。血糖、血圧、脂質などの危険因子すべてに注目し、各々を厳格に管理する必要があります。

最近、「メタボリックシンドローム」という言葉が、報道で盛んに取り上げられていますが、内臓脂肪型肥満に高血糖･高血圧･脂質異常のうち2つ以上を合併した状態のことをさします。以前は、「死の四重奏」、「シンドロームX」、「インスリン抵抗性症候群」などと呼称されてきた病態を統合整理した概念です。それぞれはまだ軽い段階でも、これらが多数重積すると相乗的に動脈硬化性疾患の発症頻度が高まるため、健康診断の結果が「やや高め」と言われた人は注意が必要です。

この度、5月22日から24日の3日間、第51回日本糖尿病学会年次学術集会が開催されました。本会のテーマは「ともに歩む、糖尿病学の新しい半世紀ー希望と挑戦ー」と掲げられました。糖尿病学のこれまでの半世紀をふまえ、これからの半世紀の出発点として位置づけたいとの思いからだそうです。そこには、糖尿病の成因が全面的に解明され、根治が可能となる新しい治療や予防の実現に向かうという期待が込められています（ー希望と挑戦ー）。

近年、糖尿病に関連する新たな分子の同定および作用機序の解明、それに伴う新規経口糖尿病薬の開発は目覚しいものがあり、病態に即した治療薬の選択が可能となりました。インスリン製剤についても、1921年に速効型（レギュラー）インスリンが臨床応用されて以来、様々な進歩を遂げ、インスリンアナログ製剤（超速効型や持効型溶解）の開発へと結びつきました。加えて、操作性の良いインスリン注入器の開発や簡易血糖測定器の普及もインスリン療法を取り巻く環境を著しく改善したと言えます。今後、新しい作用機序の薬剤の開発および臨床応用、万能細胞（iPS細胞）の樹立と再生医療の実現に期待したいところです（ー希望と挑戦ー）。

当院の糖尿病･代謝内分泌科は、糖尿病、脂質異常症などの代謝疾患の他、甲状腺疾患を始めとする内分泌疾患全般の診療を行っております。内分泌疾患（ホルモンの異常によりもたらされる病気）は決してまれではなく、また難解な病態でもありません。現在、ホルモン測定の感度、特異性は格段に向上し、加えて、画像検査の進歩も内分泌疾患の診断の上で、多大な貢献をもたらしたと言えます。しかしながら、見逃されていることが多いのも事実です。例えば、人間ドックを対象とした最近の調査で、顕性甲状腺機能低下症の頻度は0.5%、潜在性低下症は4.7%であったと報告されており、ドック受診まで機能低下症を発見できなかったことになります。また別の例で、高血圧症の5～10%に原発性アルドステロン症（副腎腫瘍）を認めたとの報告もあり、内分泌性高血圧症の除外は最初に行われるべき重要なステップであるといえます。原因疾患の早期治療により治癒可能であるからです。

患者様の病態に最も適した治療を御提供できるよう努めてまいります。

東京タワーがブルーにライトアップ

「世界糖尿病デー」2007年11月14日

ジェネリック医薬品

薬剤科　山田豪樹

テレビのコマーシャルや新聞の広告等で「ジェネリック医薬品」と言う言葉をよく聞くようになりました。近年、医療界のみならず広く社会全般においてもジェネリック医薬品に関する色々な情報が飛び交っています。そこで、今回はジェネリック医薬品についてお話します。

ジェネリック医薬品とは、新薬（先発医薬品）の特許期間が満了し、有効性と安全性が確かめられた後に厚生労働省の承認を得た、同じ成分、同じ効き方でありながらより安価に提供できる後発医薬品のことです。

一般に新薬開発には、非常に長い年月と200～300億円程度の費用が必要とされています。

ジェネリック医薬品の場合は有効成分の安全性や有効性は新薬の膨大なデータにより担保されているものとして開発がされるので、必要な試験が少なくて済みます。そのため開発期間も短縮でき医薬品によっては数千万円の費用で開発可能です。ジェネリック医薬品の最大のポイントは価格だと言えます。開発期間や開発費用が抑えられるため、価格が新薬の2～7割に設定されています。ジェネリック（generic）とは「一般的な」・「総称の」と言う意味の英語で、欧米では医師が商品名ではなく薬の有効成分である一般名（generic name）で処方する事が多いため「ジェネリック医薬品」と呼ばれています。

今日、ジェネリック医薬品は日本でも多く使われるようになってきて、日本の医薬品市場におけるジェネリック医薬品の普及率は16.9%（2006年度）となっていますが、海外に比べ普及しているとは言えません。同じ年度で比較した場合、アメリカでは63%に達していますし、イギリス、ドイツ、フランスはそれぞれ59%、56%、39%となっています。

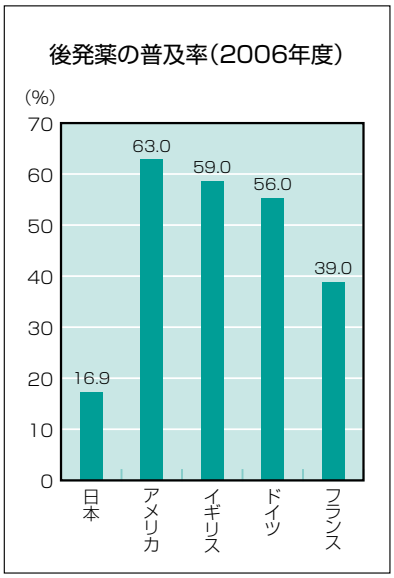
日本でも、今年4月にジェネリック医薬品の使用促進をさらに進めるために処方せんの様式が変わりました。「後発医薬品（ジェネリック医薬品）への変更不可」の欄に医師のサインが無ければ、患者様は調剤薬局の薬剤師と相談してジェネリック医薬品に変更することができます。

また、薬剤師にはジェネリック医薬品について患者様に説明する事が義務付けられました。

少子高齢化が進む日本では、国の医療費削減が大きな課題となっています。

特許期間が満了している全ての医薬品をジェネリック医薬品にすることで、薬にかかる費用を一兆円程度削減することも可能と言われています。ジェネリック医薬品を治療に使用することは、医療の質を落とさずに医療費を抑制する手段の一つと考えられています。

今、患者様自身がお飲みになっているお薬を確認してみて下さい。全ての薬にジェネリック医薬品があるわけでは有りませんがジェネリック医薬品に変更する事を医師やかかりつけ薬局の薬剤師に相談されても良いかと思います。



看護師募集

■職　種
常勤看護師（夜勤のできる方）
新卒者、既卒者でブランクのある方も研修があり安心です。

■お問い合わせ
月～金曜日　8:30～17:00
TEL 028-673-2111（庶務係へ）

いつでもご相談に応じます

東５病棟

看護師長　加 藤 浩 子

ようこそ、東5病棟へ!私達の働く東5病棟は、小児慢性疾患、整形外科、神経内科の混合病棟です。そこに本年4月から糖尿病･代謝内分泌科が加わり、小学校低学年から90歳代まで、男女問わず幅広い世代の患者様が入院されています。

小児慢性疾患では、小児科医師や児童指導員、臨床心理士等様々な職種と連携を取り合いながら、患児が病気と向き合う強い心身を養う事が出来ることを目指して、鍛錬型活動に一緒に参加しています。また、季節の行事を通して、病棟全体で交流する機会を取り入れています。患児達は、入院加療しながら、隣接する岡本特別支援学校に通学している為、日々の体調管理や学校との連絡調整も欠かせません。

整形外科、神経内科では、骨折、関節痛、脳血管障害の急性期からリハビリ期まで、様々な患者様が入院されます。高齢化社会は当病棟にも確実に到来しており、安全･安楽な入院生活が送れるよう日々の環境整備に取り組んでいます。

糖尿病･代謝内分泌科では、糖尿病と診断された患者様が、血糖値のコントロールと、療養に対する知識を習得することを目的として入院されてきます。今や糖尿病は、全世界で5秒に1人が罹患しているといわれる疾患であり、人ごとではありません。自己管理能力を高める為の援助のみならず、日々進歩する糖尿病治療に対して、看護師自らも知識を習得していくことが必須です。当病棟では、「根拠に基づいた安全で信頼のおける看護」が提供できるよう、糖尿病看護においては、糖尿病療養指導士の資格取得をめざす看護師の育成に取り組んでいます。

このように、様々な診療科の患者様が入院される為、学びの多い病棟です。慌ただしい日々ながらも、看護師個々が得意分野を持ち、「このことならこの看護師に聞けば間違いない!」と言われるような看護師の育成に取り組んでいきたいと思っています。これからも東5病棟を新米看護師長共々、どうぞよろしくお願い致します!

臨床検査科

臨床検査技師　永 井 栄 子

臨床検査は血液や尿など、患者さまのからだの一部から検体を採取して行う「検体検査」、心電図や呼吸機能検査、超音波検査など、検査技師が患者さまと一緒になって検査を行う「生理検査」があります。

検体検査には、「生化学検査」「免疫･血清検査」「血液学検査」「尿･一般検査」「細菌検査」「病理･細胞診検査」など様々な検査があります。実際に直接患者さまと接することは無くても、患者さまの大切な検体に対し正確･迅速をモットーとして対応しています。また一方、生理検査では患者さまの協力が必要であり、安心して検査を受けて頂けるように心がけています。

さて、当院検査科は現在、小嶋検査科長を中心に臨床検査技師9名、検査助手1名の検査のスペシャリスト達が、毎日多くの検査を行っています。検査精度･技術向上のために各種勉強会･研修会への参加や資格取得など、自己のスキルアップに向けた取り組みも積極的に行っています。昨年12月からは、血液製剤の一元管理に向けた取り組み･新検査システムによる検査報告書の集約･外来患者さま向け検査パンフレット作成なども取り組んできました。また、現在午前中は、検査技師が外来処置室に出向き採血業務等に携わっています。看護師ではなさそうな白衣を着た職員が採血のお手伝いをしていたら、きっと検査技師です。検査について何か疑問な点がありましたら、急に対応出来ないこともあると思いますがお気軽にご相談下さい。

これからも、宇都宮病院の臨床検査科として、診療支援や看護支援に積極的に取り組むと共に患者さまの診療･診断に貢献出来るように、精一杯努力していきたいと思います。

「看護の日」記念行事

～看護ってすばらしい～

看護部行事委員長　小林誠子

毎年5月に「看護の日」を記念し、イベントを企画しています。昨年から、患者・家族・地域の皆様に病院職員との交流、体験を通して医療・看護への理解と関心を深めていただき、当院を知っていただく機会としたいと考え、院外で企画しています。今年は5月9日に「看護ってすばらしい」をテーマに近隣のスーパーマーケットのご協力を得、実施することができました。

イベントの内容は、当院の活動をご理解いただくためにと病院案内や広報誌、最近始めた「物忘れ外来」の紹介をしました。また、健康管理に役立てていただきたいと健康に関する各冊子の配布、医師・看護師・栄養士・児童指導員による健康相談、測定コーナーを設け、皆さんに興味・関心を持っていただけるよう工夫しました。

日頃健康に自信のある方や不安を抱いている方、御家族の健康管理に困っている主婦の方、育児に悩みを抱えているお母さん等多くの人々に参加して頂くことができました。

特に測定コーナーでは、四肢・体幹の部分毎に計測できる体脂肪計や日頃計測する機会のない骨密度が大人気でした。測定した数値等の不安を医師や栄養士の指導により、その場で解消できた方が多かったようです。また、毎日行っている歯磨きは、歯科医師の指導で正しい効果的なブラッシング方法を学ぶことができました。

今回、アンケートの結果で当院をご存知の方が89%あったことは、非常に嬉しいことでした。当院を利用された方も昨年の34%から46%に増加しています。もっと多くの皆様にご利用いただけるよう、これからもこのような院外での活動を行いPRをしていきたいと思います。

今回地域の皆様と触れ合い、あたたかい励ましのお言葉をいただき、地域の皆様の当院への期待を感じました。これからも宇都宮病院職員が一丸となり皆様に必要とされる病院になるよう努力したいと思いますのでよろしくお願い致します。

編集後記

昨今、地球温暖化の影響でしょうか、夏の暑さは年々厳しいものになってきています。そんな中、緑の多い当院の周辺を散策してみるのはいかがですか。自然の風を肌に感じながら、マイナスイオンをたっぷり浴びて…。もちろん、紫外線対策は忘れずに!
今後とも、皆さんからのご意見、投稿等お待ちしております。

栄養管理室　青木緩美

表紙撮影:東6看護師長　中田立子

外来診療担当医表

平成 20年 7月 1日現在

診療科名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
総合診療科（初診）						
内科		沼尾　利郎	戸田　正夫	池野　義彦	岡田壮令(第1·3·5) 戸田正夫(第2·4)	戸田　正夫
外科		富沢　健二	富沢　健二	最上　恭至	最上　恭至	増田　典弘
糖尿病代謝内分泌科	午前	佐藤　稔	森　豊	加瀬　浩之	佐藤　稔	太田　怜
	午後	佐藤　稔	太田　怜	加瀬　浩之		
神経内科		伊藤　雅史			椎葉　千恵	
消化器内科		小倉利恵子	菅谷　洋子	大木　了	小嶋　和夫	菅谷　洋子
循環器内科			箕田紳一郎(第2·4)	伊藤　致		箕田紳一郎
腎臓内科 (午後)[予約制]					岡田和久(第2·4)	
呼吸器科	再診	岡田　壮令	沼尾　利郎	戸田　正夫	太田　真弓	鹿島　隆一
アレルギー外来	午後	戸田正夫·池野義彦		戸田正夫·池野義彦		
小児科	午前					
受付(午後) 14:00~16:00	午後		予防接種 (小児)[予約制]		子供養育相談ルーム [予約制](第2·4)	
小児アレルギー外来 (午後)[予約制]					中野俊至(第1·3)	
小児神経外来(午後)		奥野　章(第3)				
外科	午前2診	増田　典弘	伊藤　知和	増田　典弘	増田　典弘	伊藤　知和
	午後1診	富沢　健二	富沢　健二	最上　恭至	最上　恭至	最上恭至(隔週) 富沢健二(隔週)
整形外科	1診	田中　孝昭	飯田毅博(新患のみ)		菊地　隆宏	熊谷　吉夫
	2診	真島　敬介		飯田毅博(第1·5) 真島敬介(第2·4) 熊谷吉夫(第3)		真島　敬介
リウマチ科 (整形外科1診)				熊谷吉夫(第1·5) 田中孝昭(第2·3·4)		
リハビリテーション科				熊谷　吉夫	熊谷　吉夫	熊谷　吉夫
装具外来		田中　孝昭				熊谷　吉夫
※耳鼻咽喉科(午後)			添田　弘			
※歯科			渡辺　裕子	渡辺　裕子	渡辺　裕子	
禁煙外来(保険外診療)	午後	戸田　正夫		戸田　正夫		沼尾　利郎
物忘れ外来(完全予約制)	午後			伊藤雅史·椎葉千恵		
眼科（午前）						永田万由美
皮膚科	午前					
	午後		嶋岡　弥生			

病院紹介

- 外来診療受付時間　8:30～11:00
  外科は、午後も診療を行っております(午後の診療受付時間 14:00～16:00)
- 耳鼻咽喉科、歯科に関しましては入院患者さまのみの診療となります。
- 眼科·皮膚科·物忘れ外来につきましては、地域医療連携室におきまして電話での予約を受け付けております。
- 眼科診療時間　9:00～12:00　　皮膚科診療時間　13:30～16:30　　物忘れ外来診療時間　14:00～15:00
- 地域医療連携室　TEL 028-673-2374(直通)　FAX 028-673-1961(直通)
  担当　永山悦子(ケースワーカー)、宇梶多恵(ケースワーカー)

独立行政法人(NHO)
国立病院機構 宇都宮病院
〒329-1193　栃木県宇都宮市下岡本町2160
TEL 028-673-2111　FAX 028-673-6148
http://www.hosp.go.jp/~utsuno/